

Dream Plan

平成24年度 ドリームプラン

着物から洋服へ 東京ビッグサイト「デザインフェスタ vol.36」へ出展

家政学部服飾美術学科 宮城花衣

平成24年度のドリームプラン奨学金に採用していただき、デザインフェスタで作品の展示・販売をしてきました。

今回私がドリームプランに応募したのは、もっと多くの人に着物や日本の伝統工芸に触れてほしいという思いがあったからです。私の母が着物を日常的に着ていたため、着物にふれる機会が多くあり、その影響で着物が好きになりました。しかし、現在では日常に着る人は少なく、なかなか触れる機会がないと思います。そこで“和”の文化やアイテムに触れてもらい、もっと着物を身近に感じてほしいと思い、着物をリメイクした作品をデザインフェスタ vol.36 で展示・販売することにしました。

まず、私自身、着物の文化にもっと触れたいと思い、京都へ行って染色工房でのワークショップへ参加することになりました。そこでは京都の伝統工芸である京友禅の染色を体験することが出来ました。そこで体験したのは浴衣地を型紙友禅という技法を使って染める体験です。私は夏休みを利用して体験に行ったのですが、クーラーのない中 13m の長い反物を一人で染めていくのは大変な作業でした。

まず、絵柄部分を染めていく「捺染」と呼ばれる作業をしました。型枠を基準となる印に合わせて置き、駒べらで染料をとり、圧力が均一になるように生地に染料を乗せていきます。この圧力を均一にして乗せるという作業はコツをつかむまでなかなか大変でした。わたしは紫陽花柄という大柄を選んだので、均一にしないとにじみが目立ったり、濃淡がついてしまうとのことでしたが、最初のうちは染料が端に溜まってしまったりと、苦労しました。柄の色ごとに型枠を変えて同じように染料を乗せていきます。柄が全部染め終わり、染料が乾いたら「伏せ糊」という作業をします。彩色された部分を厚めの防染糊で覆う作業です。この作業をすることで柄が地色で染まってしまうことを防ぐことができ、きれいな色に仕上がるそうです。この作業はかなり力が必要で、腕が筋肉痛になりました。糊が重く固いため、厚めに伸ばしていくのに力のある作業でした。力には自信のあった私でしたが、かなり時間がかかり苦戦しました。糊を一晩おいて乾かし、地入れという作業をしていきます。この作業をするために反物の両端を引っ張り、縄を使って柱に吊るし、宙に浮かせて、伸子を裏から刺していきます。13m の反物が吊るせる広い場所なので、もちろんクーラーなどなく、下の工房で火を使われているということで、とても暑い中での作業で、ここでは染



色よりも暑さとの戦い、といった感じでした。地入れが終わり、乾かしたら体験の最終工程の地色を染める「引き染め」という作業をしていきます。仕立てたときに斑にならないよう、大きな刷毛を横に大きく動かして染めていきます。この作業は細かいことを気にせずやることができたので、今までの工程の中で一番楽しく軽快に進みました。ここまでで染色体験は終わりです。この後、工房の方が後処理をして、自宅に出来上がった反物を送っていただきました。暑い中苦勞して染めた反物だったので、出来上がったものを見たときは達成感でいっぱいでした。



もう一つ、京都で染色体験をしたのですが、そちらでは風呂敷を染めました。浴衣と同じように型を使って染めていくものでしたが、こちらでは柄が細かく、小さい刷毛を使って染めました。自由に濃淡を入れて染めることができた事、多くの色を使うことができた事が浴衣と違って面白かった点です。



デザインフェスタの作品は、私の住む町、栃木県足利市で盛んだった足利銘仙という織物の着物をリメイクして作ることにしました。大正から昭和にかけて流行した織物なので、リサイクル着物屋さんへ行くと、サイズが小さすぎて着られないものがほとんどでした。サイズが小さいだけ、少し汚れている部分があるだけで眠っている着物がたくさんあるのは勿体ないと思い、材料にした着物は特にサイズの小さいものや、汚れがあるものを選びました。



デザインは柄がよく見える様、シンプルなものにしました。型紙を作る際、反物の幅に収まるようにしなくてはならない点で苦勞しました。

作り方としては、着物を衿からほどき、洗います。汚れのある部分を特に気を付けて洗いました。それでも落ちなかった部分は縫い代部分になるようにしたり、省くようにして型紙をあてて裁断しました。反物の幅が狭いので、どうやって型紙を置くか無駄が出ないように工夫して裁断しました。ワンピースとスカートを作ったのですが、どちらも布の分量がギリギリだったので、柄の出方や柄合わせをうまく調節するのがとても難しく、苦戦しました。

出来上がったものは、完璧とは言えませんが、銘仙の特徴を生かしたデザインに作れたと思います。

当日、デザインフェスタで展示した際には、多くの方が声をかけてくださり、着物や銘仙に興味を持ってくださいました。『着物を着てみたい』『しまってる着物を出してみようかな』という声もたくさん聴くことができ、とても嬉しいです。これらのことを糧に、これからも着物や織り、染めなどを広めていく活動をしていきたいと思っています。



今回のドリームプラン奨学金に採用され、数々の貴重な体験をすることが出来ました。後援会の皆様、協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。

残り少ない学生生活ですが、精一杯学び、卒業後も積極的な活動を続けて行きたいと思っています。